

小さいまちなりの特徴をいかす

～地域コミュニティで活躍できる子供の育成をめざして～

地域の
特色ある
活動

和歌山県岩出市教育委員会

1 はじめに

本市は、和歌山市中心部及び関西国際空港に近いという立地条件の良さから宅地開発が進み、1985年（昭和60年）には本市の総人口は28,066人でしたが、バブル期を迎えた1990年（平成2年）には、32,846人となり、2006年（平成18年）には平成の大合併として市町村合併が全国で行われる中、単独市政施行を行い、令和6年11月末現在の総人口は、53,891人（小学校6校計児童数2,846人、中学校2校計生徒数1,353人）となっています。ピークは過ぎたと考えられるものの、現在も続く大小様々な宅地開発等により、1校当たりの児童生徒数が和歌山県内において最大規模となっている学校が複数校あるというのも特徴の一つです。

2 行政主導の取組

岩出市の子供たちが「将来に向けた『生きる力』をもった子供」に成長し、これからの予測不可能な時代をたくましく生き抜いていってほしいと願い、以下の施策に取り組んでいます。

(1) 授業改善とICT教育への取組

岩出市では学力向上プロジェクトチームを編成し、部会ごとに市内すべての学校から一人ずつ教員が参加し、情報交流や研修を行っ

ています。授業の中で「学び合い」を有効に取り入れるための先進地視察や、外部からアドバイザーを招いて授業改善を行い、その成果を教職員研修で発表することで市内全校に還元しています。

将来児童生徒に求められるスキルとして、ICT活用やプログラミング教育にも力を入れています。ICT活用については、日常的に児童生徒が使用しているロイロノートを活用し、児童生徒が主体となる授業を展開すべく、令和2年度から市主催の教職員研修を実施しています。令和5年には市内のすべての学校にロイロ認定ティーチャーが配置されており、授業での活用が進められています。プログラミング教育では、各中学校に「ライフイズテック レッスン」を導入し、テキストプログラミングの学習を通じてプログラミング的思考の育成も行っています。

(2) 防災力向上への取組

近年日常の社会生活を一変する災害などの事象発生が続くことから、防災教育にも力を入れており、毎年夏休みには、市内の中学生を対象に「防災ジュニアリーダー育成講座」を開催しています。消防本部と連携し、避難所運営ゲームや救助訓練等、2日間にわたって災害に対する備えや被災した際の対応について学びます。

(3) 不登校児童生徒への取組

年々増加する不登校児童生徒対策として教育支援センター「フレンド」を設置し、市内在住で不登校状態にある小中学生の社会的自立や学校生活への復帰を支援しています。定期的にスクールカウンセラーが来室し、個別相談を行うことでもできます。「フレンド」では給食を食べることもでき、午前・午後・学年を問わず、学習や自由な活動を支援する体制を整えています。

3 地域とともにある学校づくり

本市では、「地域とともにある学校づくり」に向け、生涯学習課では地域ボランティアの募集を、教育総務課では学校運営協議会の運営への支援を行い、2課が連携しながら、各学校がスムーズに運営していけるよう横断的なサポート体制を構築しています。

登下校時の見守り活動、図書室の整理や絵本の読み聞かせ、学校の畑での植物の栽培や校内整備、家庭科実習のサポートなど、様々な教育活動に地域ボランティアの方々から支援をいただいています。特にここ数年、中学校の社会貢献活動としての「地域清掃活動」が広がりを見せ、中学生が地域の小学校と連携し、共にまちの清掃活動を行っています。

またこの活動には、学校運営協議会や地域ボランティアの方々に関わることで、地域一

帯の活動を実現できています。更に、地域の企業の社員の方々とともに活動を行うなどの広がりも見られています。

今後も更なる支援をいただきながら、密接に繋がり、一層連携を深めていきたいと考えています。

4 おわりに

張り巡らされた幹線道路と進む宅地開発、大型店舗やロードサイドショップの進出が相次ぐなか、住機能型の都市（市外で働く人が多く、夜間人口が多い。いわゆる「ベッドタウン」。）として急激な人口増加とともに都市化が進んできましたが、本市でも少子高齢化の波が押し寄せています。

住機能型の都市の課題として、勤労世代が昼間に生活エリアにおらず、地域コミュニティが成り立ちにくく、人を支えるコミュニティ機能の低下、人と人とのつながりの希薄化が挙げられます。

その課題解消に向け、本市としても社会がどのように変化しようとも子供たちがふるさとへの誇りと愛着をもち、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、そして、たくましく生きていくための健康や体力をバランス良く育むことができるよう、より一層「効果的な教育行政の一層の推進」を図ってまいります。



岩出第二中学校学校運営委員会の活動の様子



教育長
津田 浩伸